

油谷地区の現状

総人口: 5,631人

(今年2月末現在)

前年度比 **-188人**

高齢化率**53%**・過疎化



金子みすゞのふるさと・長門市



分科会テーマ

コミュニティ・スクールが可能に
する地域課題の解決と地域活性化

コミュニティ・スクールにおける ネットワーク型公民館の役割

～学校を核としたトライアングル型まちづくり事業の取組～

長門市油谷中央公民館長 中村 典生
同 運営協議会会長 森田 和康

キーワード

実践事例 話の構成

- ①コミュニティ・スクールが可能にする地域課題の解決と地域活性化
- ②ネットワーク型公民館の役割

1、油谷小コミュニティ・スクール10年間の歩み

スライド視聴

2、やまぐち県型地域連携教育の具現化における公民館の役割

3、学校を核としたトライアングル型まちづくり事業の取組

～子どもと学ぼう&カレーライスとサロンの日～

4、子どもは未来からの留学生

油谷小コミスク10年間の歩み

～3年前から、単なる支援を超えて、

地域と連携・協働へ～



3年生になって学ぼう外国語活動

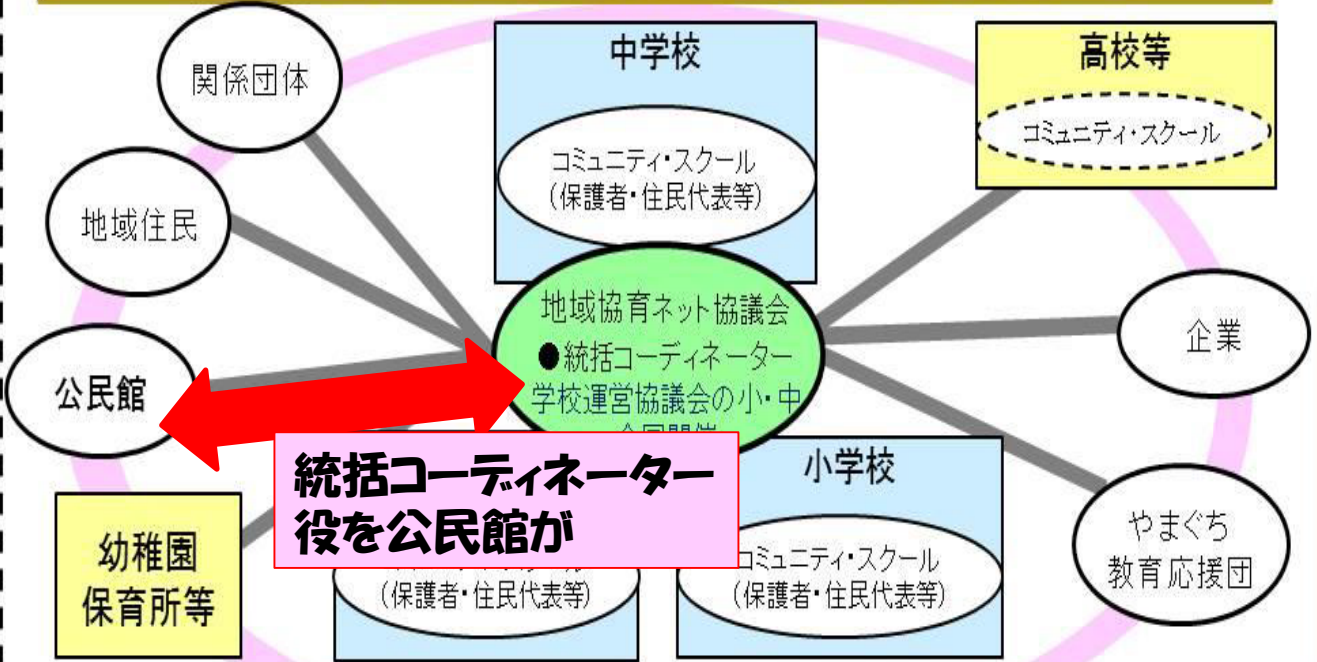


子どもと学ぼう&カレーライスとサロンの日

これまで～2017年(平成29年度)

「やまぐち型地域連携教育」の推進

コミュニティ・スクールを核とした地域のネットワーク



**統括コーディネーター
役を公民館が**

地域の教育力の向上
地域の活性化

学校・家庭・地域の連携・
協働による教育活動

学校支援
学校教育の質の向上

学校運営
学校運営の質の向上

地域貢献
学校を核とした人づくり・地域づくり

コミュニティ・スクールを核とし、地
域をネットワーク化して地域総がかい
で子どもの教育にあたる仕組み。
→地域協育ネットの仕組みを生かす。

「やまぐち型地域連携
教育」推進の車の両輪

2018年度(昨年度)からの模式図

「やまぐち型地域連携教育」の推進

コミュニティ・スクールを核とした地域のネットワークの強化による
人づくりと地域づくりの好循環の創出

めざす方向性

- 地域コミュニティの創造**
支え合い・助け合う
温かい地域の絆がある
- 地域の担い手の育成**
子どもがふるさとに
誇りや愛着をもっている
- 子育て環境の充実**
県内のどこでも
安心して子育てができる



コミュニティ・スクールの
3つの機能の充実

- 学校運営**
学校運営の質の向上
- 学校支援**
学校教育の質の向上
- 地域貢献**
地域のよりどころとなる
学校づくり

地域の将来を担う人材を育成すると共に、
自立した地域社会の基盤の構築の模式図

新指導要領にそった模式図

これからの10年の模式図

コミュニティ・スクールを核とした地域のネットワークの強化による

人づくり・地域づくりの好循環を創出する

「やまぐち型地域連携教育」推進の要

統括コーディネーター



油谷中央公民館

公民館は生涯学習の拠点のみでなく、
地域づくりの拠点としての機能することが求められている

油谷中央公民館・公民館運営協議会

ネットワーク型公民館づくり

つなぐ、結ぶ、活かし活かしあう関係づくり

地域課題 高齢化率53%のまちの活性化

高齢化(地区社協) = 健康寿命の延伸



つなぎ、結び、生かし生かしあう

学校 = 学校を核とした地域づくり

「学校を子どもと住民の学びの共同体」の場に

公民館

公民館運営協議会



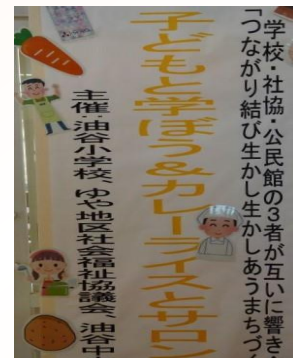
授業聴講 & カレーとサロンの日

子どもと学ぼう

○学校の願い

「地域と共にある学校づくり→学校を核とした地域づくり」の事業

～学校は子どもと住民の学びの共同体～



○公民館の願い「つなぎぐ・結ぶ・生かし生かしあう関係の構築(ネットワーク型公民館づくり)」の事業

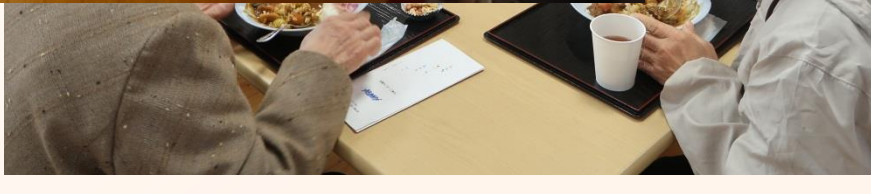
○地区社協の願い

「健康寿命を延ばし認知症を防ぐ(頭・体・社会参画)」の事業

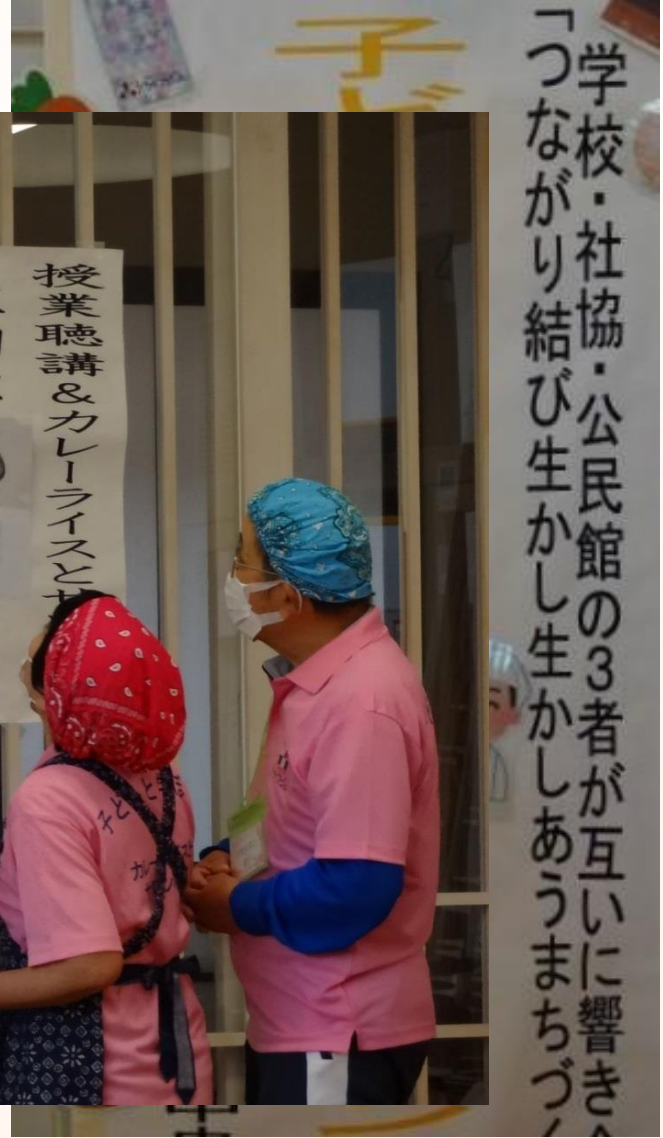
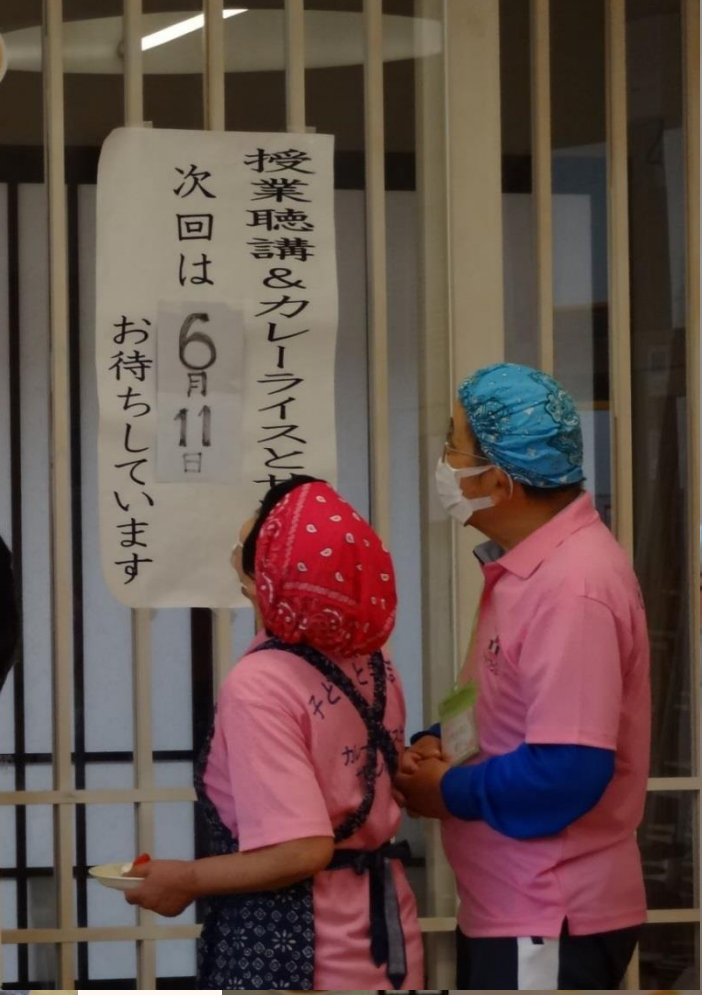
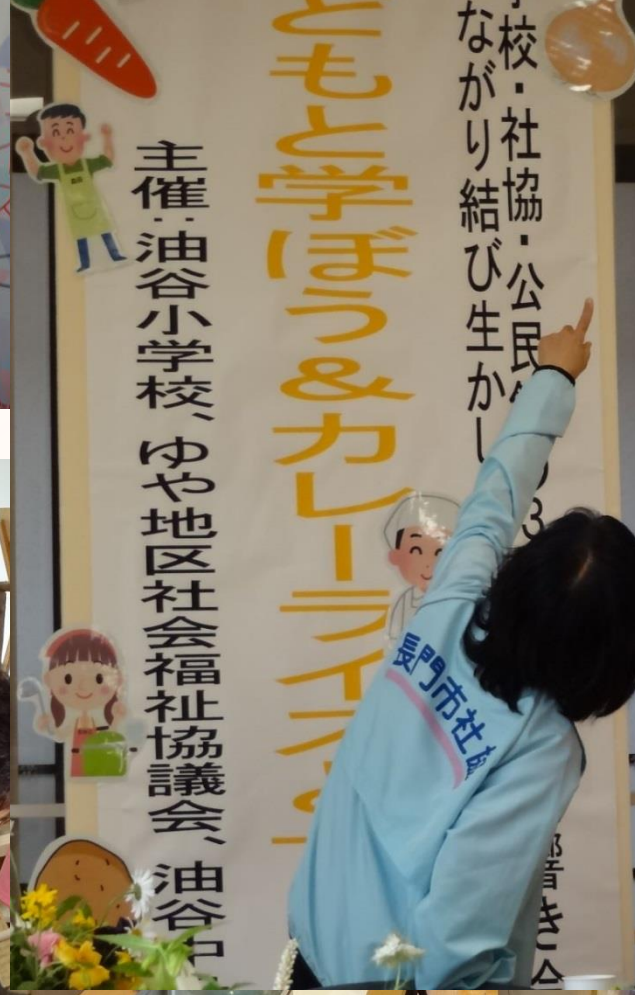


それぞれの願いを共有し、共に響き合うトライアングル型のまちづくり事業









苦難の道を歩むであろう子どもたちの将来に責任を持って、今を生きる教師として、地域の大人として、

私たち住民にできること

今を生きる真摯な姿

を子どもたちに**直接見せておくこと**が大事な時代になってきている

住民同士が「つながり、結び、活かし活かしあい」ながら**楽しく集う姿**



コーディネータとして見えてきた仕掛け

→ コーディネータとして大切にしている手立て

- 1, 「支援しなければならないから」ではなく「楽しいから支援する」
「学校へ行かねばならないから」ではなく「楽しいから学校へ行く」への意識転換
- 2, 地域には、様々に活動しておられ、得意技を持っておられる方々が沢山おられる。
そんな地域の得意技を持っておられる人に「出番と役割」を準備し、「生きがい感」に訴え活動に誘う。
- 3, 物事が習慣化する仕組みの3要素「認知」「行動」「感情」要因に働きかける。
→住民には、最も大切な「感情的要因<楽しいだろうな>」と思わせる。そして「行的要因<結果として楽しかった>」へ誘う。さらに「認知的要因<あぁいいこと、素晴らしいことなのだ>」へと導きたい。～
* そのためには、成果の「可視化(見える化)」を図ることが大切となる。
- 4, Never act Never in(働きかけないところに参加はない)
→不特定多数への働きかけでなくでなく、「あなた」に働きかける。(情報はナサケのシラセである)
* 働きかけは「人」にだけでなく、事業や内容にも働きかけバージョンアップして行く。

等々